

大津・南部 の森づくり

平成24年(2012年)12月26日発行

<編集・発行>

滋賀県西部・南部森林整備事務所 林業振興担当

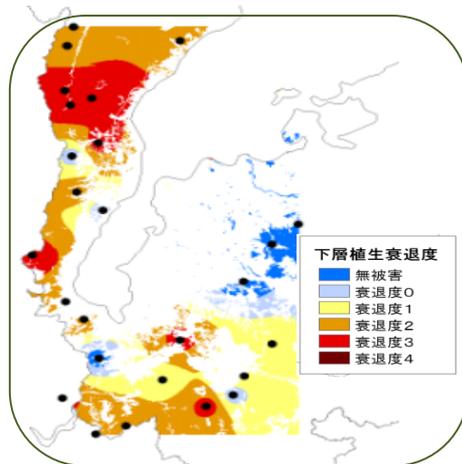
TEL 077-527-0655 FAX 077-523-1831

E-mail dj35@pref.shiga.lg.jp<http://www.pref.shiga.jp/d/o-ringyo/>

ニホンジカ被害の調査について

近年、シカの食害により森林の下層植生が衰退していることにお気づきの方も多いのではないのでしょうか。森林の下層植生は、水源のかん養や土砂の流出の防備など、森林の公益的機能に重要な役割を果たしており、その影響が懸念されるところです。これまで下層植生の被害評価は県内では行われたことがなく、被害の現状を把握するために今年度県下全域で調査を実施しているところです。当事務所管内の調査結果は右図のとおりです。大津市の北西部や南部で特に被害が顕著であることがよくわかります。

県内での2010年度のシカの推定生息頭数は47,000頭～67,000頭とされており、年間約9,600頭の捕獲が実施されておりますが、今のところ下層植生の回復や林業被害の減少には至っていないようです。右の写真では、食害による下層植生の衰退が顕著で斜面の土砂の流出も見られます。ここ数年の森林下層植生の急速な衰退を考慮するとその対策は緊急性が高く、今回の調査結果が重点的な施策の展開に役立つことが期待されます。



▲管内調査結果



▲シカの食害による下層植生の衰退（大津市）

びわ湖材の利用拡大への取り組み



▲保育園の木製書架

滋賀県では、琵琶湖森林づくり県民税を活用した事業（木の学習机等木製品促進事業、びわ湖材利用促進事業）で、びわ湖材の利用を応援しています。今年度、当事務所管内では43の保育園や学校等で、木製の椅子や荷物棚、学習机、遊具等が導入されたり内装が木質化されたりしています。当事務所の職員が製品確認のために、施設に行く際には、間伐の効果や、木材を利用することで森林が守られることを、施設の方々

や訪れた方々に理解していただくように努めています。

実際に使ってみた感想を施設の方に聞いてみると、「木のぬくもりやあたたかみがある」、「感触・香りがとても気持ち良い」、「子どもたちも喜んで大事に使っている」と好評です。これからも、びわ湖材を積極的に使うことを普及啓発して、多くの方々に木の良さを体感していただきたいと思っています。



▲木材利用の大切さを伝えています

木を見て森を見る…大津・南部の樹木探訪 「ササ」

比良山の尾根を縦走する場合、以前はササの藪（やぶ）こぎを覚悟しなければなりませんでしたが、最近では、シカの食害によりササが衰退してきており、藪こぎをすることがほとんどなくなってきました。ササは山に入ればごく自然に見かける植物ですが、識別方法についてはあまり知られていません。その原因の一つとして、開花周期が不特定なために花による特徴がつかめないことがあります。しかしながら、ササを良く観察してみると、地面からまっすぐ上に生えるものや、斜



▲イブキザサ

めに生えるもの、枝の生え方、葉の裏面の毛の有無等々、いろいろな特徴を持っており、これらの特徴から識別も可能です。（かなり高度な知識を要しますが…）

さて、蓬萊山から権現山にかけての尾根部に広がるササはイブキザサという種類です。このササは伊吹山や比良山のほか、京都や伊豆半島、四国など限られた地域にのみ分布しております。大きいものだと2m程度の高さに達し、山を覆う大群落は独特の山の景観を呈しており、登山者の目を楽しませてくれます。



▲蓬萊山頂南側斜面のイブキザサ群落

～林業技術情報～

奈良県林業事業体の視察



11月に栗東市林業振興会の皆さんとともに奈良県吉野の清光林業(株)を視察させていただきました。清光林業(株)では大阪府指導林家の大橋慶三郎氏に学び、路網を活用する積極的な林業経営を実践されています。現地では岡橋清元会長より作業道や林業経営についてたくさんのお話を伺うことができました。下記はお話の要約です。



▲丸太による路肩補強



▲100年生を超える手入れされた林分

■吉野では優良材生産、ヘリ集材が主力だが、今は採算が取れず山の手入れができないので、路網と機械作業を取り入れコストダウンを図っている。2.5m幅の高密路網を開設し、グラップルウインチで集材、2tトラックで搬出している。

■試行錯誤して道を作ってきたが、山の踏査、水の処理が特に重要だと考えている。人の山でやるには出来るだけ完全なものを作って信頼を得る必要がある。開設時に安くても毎年修理に経費がかかるようでは結果として高くつく。

■重機は3t半くらいのバックホーでしっかり踏み固める。山側は人の肩の高さ（約140cm）を越える場合、丸太で法留めをする。谷側の路肩も条件により丸太を使って補強する。

現地は100年を越えるスギ林で手入れが行き届き、作業道は自然と調和して安心感のあるものでした。近年作業道づくりでは様々な工法が提唱されていますが、当事務所管内でも、それぞれのよいところを取り入れ、山づくりに生かしていきたいと考えています。